第11章　人づくり・環境学習等

第1節　人づくりの推進

1　ESDユネスコ世界会議の成果と継承【環境政策課】

（1）ESDユネスコ世界会議の成果

2014年(平成26年)11月10日から12日まで、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）及び日本政府の主催で、「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」が開催されました。この会議は、**「国連ESDの10年」**における各国のESDの取組の成果の共有を図り、2014年以降の方策を議論する大変重要な国際会議でした。

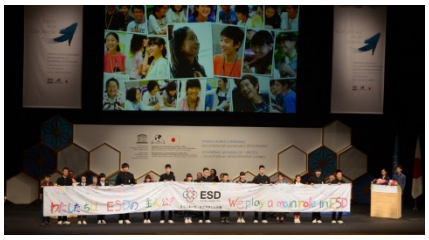
ESDユネスコ世界会議では、「国連ESDの10年」の活動を振り返るとともに、2015年(平成27年)以降のESDの推進方策として５つの優先行動分野が示された**「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」**を今後推進していくための議論が行われました。この会議の最終日には、GAPを後押しし、2015年以降に各国の政策にESDを取り入れることを呼びかける**「あいち・なごや宣言」**が採択され、この宣言は翌月（12月）に国連総会で決議されました。

【ESDとは】

Education for Sustainable Developmentの略で、「持続可能な社会を支える担い手づくり」のことです。国連などが中心となって世界中で進められている取組で、環境、貧困、人権、平和など人類を取り巻く様々な課題を自らの問題とし、環境・社会・経済を統合的かつ総合的に捉え、持続可能な社会の実現に向けて行動できる人を育てる取組です。

【ESDユネスコ世界会議の概要】

名　　称：持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議
(UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development)
主　　催：国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）、日本政府
開催期間：2014年11月10日（月）から12日（水）まで
ハイレベル円卓会議、全体会合等
※　11月13日（木）には、日本国内の関係者によるフォローアップ会合を開催
会　　場：名古屋国際会議場（名古屋市熱田区）
参加人数：153カ国・地域から76名の閣僚級、ユネスコ加盟国の政府代表、NGO、大学関係者、民間部門、国連機関、専門家、ユース世界会議代表等を含む1,000名以上が参加



閉会全体会合におけるあいち・なごやの子ども達によるメッセージ発表

（2）成果の継承

県は、2005年（平成17年）の愛知万博や、2010年（平成22年）のCOP10の開催により、「持続可能な社会」の大切さへの意識が高い地域ですが、ESDユネスコ世界会議の開催を通じて、環境面における「人づくり」を多様な主体と連携・協働して地域全体で取り組んでいくことが重要であることを改めて認識し、新たな「人づくり」の推進に向けて取り組んでいます。

特に、ESDユネスコ世界会議の「あいち・なごや宣言」では、①ユースをキーとなるステークホルダーに巻き込み尊重すること、②ユースの課題解決能力等の能力育成を強化することが重要とされたことから、県では、2015年以降、次世代の地域の担い手となる大学生や高校生を対象にした「人づくり」プログラムを順次展開し、ESDユネスコ世界会議の成果を踏まえた取組を推進しています。

２　持続可能な未来のあいちの担い手育成【環境政策課】

（１）かがやけ☆あいちサスティナ研究所

県は、近い将来、地域の担い手となる大学生が、グローバルな視点を持って、継続的に環境配慮行動を実施していくプログラムとして「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」を平成 27 年８月に立ち上げました。本研究所は、大村愛知県知事を所長とし、パートナー企業・団体から提示された環境面での取組に関する課題に対し、研究員である大学生が現場での調査や企業・団体担当者とのディスカッションを通して、解決策を企業・団体側に提案し、その成果を広く PR していくものです。

かがやけ☆あいちサスティナ研究所の概要

この取組は、平成 28 年９月に開催された全国知事会主催「第９回全国先進政策創造会議」において、環境分野の優秀政策として表彰されました。

（２）平成 28 年度の研究所プログラム

平成 28 年度は前年度の内容を拡充し、より多くの大学生を環境リーダーとして育成するために、研究員を 20 名から 40 名に増員するとともに、パートナー企業・団体を５社から 10 社へと拡大しました。

平成 28 年度のパートナー企業・団体 10 社から研究員へ与えられた研究課題は、各企業・団体が直面している環境に関する問題などであり、研究課題として魅力的な内容でした（**表 11-1-1**）。

（３）研究員の活動

研究員は７月２日の開所式を皮切りに、本格的に活動をスタートし、基礎講座（２日間）、企業環境活動研究（４日間）、成果発表準備（３日間）、研究成果発表会（１日間）、出張成果発表会（２日間）、地域環境活動の実践（２日間）などの活動を平成 29 年３月まで実施しました。特に企業環境活動研究では、研究員は自主研究してきた内容と実際の現場との比較や、企業・団体の担当者から生の声を直接聞くなど、非常に貴重な経験を得ていました。

企業環境活動研究
（中部国際空港㈱）

表 11-1-1　平成 28 年度パートナー企業・団体からの研究課題

パートナー企業	研究課題	パートナー企業	研究課題
アイシン精機㈱	アイシン精機（自動車部品製造業）の環境取組のＰＲ方法を検討	㈱三井住友銀行	環境配慮型モノづくり企業を応援する企画を検討
中部国際空港㈱	この地域で水素社会を実現するために空港島でできる水素活用のビジョンを検討	㈱Mizkan Partners	ミツカンの環境活動を小学生にわかりやすく伝えるプログラムを検討
ｿﾆｰｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾏﾆｭﾌｧｸﾁｬﾘﾝｸﾞ&ｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝｽﾞ㈱	稲沢・幸田両サイトが連携し、工場が地域と共生する環境取組を検討	㈱三菱東京ＵＦＪ銀行	お客様が当行を利用することで、環境配慮を実感できる新しいサービスを検討
東邦ガス㈱	環境に対する意識向上・行動変容に繋がる新たなイベントを検討	名鉄観光サービス㈱	持続可能な社会に向けて「環境」をテーマとした旅行商品を検討
㈱ナゴヤキャッスル	ホテルのお客様が体感できる環境配慮商品・サービスを検討	ユニー㈱	自社ブランドの環境配慮商品について、若い世代向けの新たな商品を検討

（４）研究成果発表

研究員が７月の開所式以来、約５か月間をかけて、まとめた研究成果を発表する**「かがやけ☆あいちサスティナ研究所 成果発表会 2016～考えよう！未来の環境～」**を 11 月 23 日に開催しました。

約 450 名の来場者の前で、自分達の研究成果を９分間という短い時間の中で発表しました。どのチームの提案も、大学生ならではのアイディアあふれるものであり、パートナー企業・団体から、「実現に向けて検討していきたい」と高い評価をいただきました。

発表後には、修了式を実施しました。研究員代表者としてチーム・SMBCの田中（たなか）李歩（りほ）さんが大村知事から修了証を受け取り、「今後も継続して、様々な環境活動を実践していきたい」と、今後の環境リーダーとして活躍する意気込みを語りました。

研究員代表者のコメント

また、来場者からの投票が行われ、参加者が楽しみながら環境問題や天然ガスを学ぶ「環境かるた『ワカルタ！』」を提案し、具体的な活用方法やプレゼンテーションの演出が高く評価された**「チーム・東邦ガス」**が最優秀賞に選ばれました。

チーム・東邦ガス

最後に、オリンピック３連覇を成し遂げた柔道家の野村忠宏さんから「諦めないココロの作り方」と題して、環境活動に取り組む若者に、自分達が描く理想の未来に向けて、あきらめないこと、継続していくことの大切さについて講演していただき、今年度の研究所活動を締めくくりました。

クローズアップ　かがやけ☆あいちサスティナ研究所のその後の取組

かがやけ☆あいちサスティナ研究所の活動を広く発信していくため、成果発表会 2016 において最優秀賞に選ばれた「チーム・東邦ガス」が、12 月に東京で開催された「第 14 回全国大学生環境活動コンテスト（ecocon2016）」に研究所を代表して参加しました。

ecocon2016 は、全国の大学生の環境活動の活性化を目的に毎年開催され、大学生の環境活動イベントとしては非常に歴史のあるものです。参加した研究員たちは、全国の大学生の環境活動に大いに刺激を受けるとともに、大学生同士の交流により、自身の環境活動をレベルアップする良い機会となりました。

ecocon2016 参加者

キャンドルナイト for Earth Hour

また、成果発表会において提案を受けたパートナー企業・団体でも、若者ならではのアイディアを積極的に取り入れる検討が進められています。㈱ナゴヤキャッスルでは、研究員からの提案を具現化するため、３月 25 日に節電を呼びかける国際的環境イベント「アースアワー」に参加し、披露宴等で使用されたキャンドル約 300 個を活用してホテルロビーを幻想的に演出し、金城学院大学生がハンドベルを演奏する「キャンドルナイト for Earth Hour」を実施しました。

３　幼児を対象とした自然体感プログラムの推進【環境活動推進課】

豊かな感性を育むのに重要である幼児期に自然と親しむことは、五感を刺激し好奇心を育むとともに、環境を大切に思う心を養う上で効果があると言われています。

県では、「もりの学舎（まなびや）」において、人と自然をつなぐ役割を果たす森の案内人「インタープリター」により、幼児を対象として、幼いうちから自然に触れ、学び、気付きを得る機会を提供する事業を実施しています。

（１）もりの学舎ようちえん

幼児とその保護者を対象に、もりの学舎やその周辺で、四季を通して自然体感プログラムを実施しています。

平成28年度は24組の親子が全６コースに参加し、インタープリターとともに森の探検や落ち葉を使った工作などを行い、楽しみながら自然とふれあいました。参加した保護者からは「子どもとともに自然に対する感性が深まり、普段から自然に関心を持つようになった」との声をいただきました。また、回を重ねるごとに子どもたちが協力しあい率先して森の中で活動するなど、仲間意識や自主性を持って自然の中で楽しく過ごす様子が伺えました。

隠れ家づくりの材料さがし

（２）一日もりの学舎ようちえん

県内の保育園・幼稚園等を対象にもりの学舎やその周辺で自然体感プログラムを実施しています。

平成28年度は11園が参加し、参加した園からは「普段は感じる機会の少ない森の自然を、子どもたちに体感させることができた」との声をいただきました。

今から森に出発

（３）森の伝道師派遣

インタープリターを県内の保育園・幼稚園等に派遣し、園庭等の身近な環境で自然体感プログラムを実施しています。

平成28年度は16団体で実施し、参加した園からは「森に行かなくても園庭で子どもたちに自然を体感できることがわかった」「園児が葉っぱや木などに興味を持って自ら自然あそびを行うようになった」という声をいただきました。

どんぐりを使ったプログラム

（４）その他の取組

幼児等に自然体験学習等を実施する指導者の育成事業や自然体感プログラムの策定等を実施しました。

ア　子ども自然体感活動指導者養成研修

保育士、幼稚園教諭やその職を志す学生等を対象に、園児に自然体感プログラムを実施するノウハウを身に付ける研修を実施しています。

平成28年度は30名が参加し、参加者自身が自然体感プログラムを体験することで感性を広げるとともに、実際に作成したプログラムを幼児に対して実施しました。研修生から「幼児の自然体験をどのように考えていくかの見通しを持つことができた」などの声をいただきました。

プログラムの作成

イ　インタープリター養成講座

次世代を担うインタープリターの養成講座を実施しました。修了者23名はインタープリターとして必要な視点や知識、技術を習得し、もりの学舎でインタープリターとして活動しています。

ウ　自然体感プログラムの策定・改訂

もりの学舎において、幼児からお年寄りまで様々な年代に自然体感プログラムを提供できるよう、プログラムの策定・改訂を行いました。

4　エコアクションの推進

（1）あいちエコアクションの推進【環境活動推進課】

県では、県民の環境に対する意識を地域全体の行動へと広げていくため、地球にやさしい身近な環境配慮行動の実践へとつなげる「あいちエコアクション」を推進しています。

この「あいちエコアクション」の輪を大きく広げていくために、県民参加型の啓発イベントを開催するとともに、ハードネットワークである「AEL（あえる）ネットの活用」とソフトネットワークであるWebサイト「エコリンクあいちの活用」の両輪で取り組んでいます。

ア　啓発イベントの開催

県民参加型の啓発イベントでは、エコアクションを楽しみながら学ぶことができます。

平成28年度は、11月19日（土）、20日（日）の2日間、アスナル金山・金山総合駅連絡通路橋・南口で「Let's エコアクション in AICHI」を開催し、約3万3千人の方が来場されました。ステージイベントやワークショップなどを通じて、多くの方にエコアクションを楽しみながら体験していただきました。

あいちエコアクション宣言

ワークショップ

クローズアップ　「Let's エコアクション in AICHI」を開催しました

地球にやさしい身近な環境配慮行動「エコアクション」の輪を県内に広げていくため、平成29年11月18日(土)、19日(日)の2日間、金山駅周辺で「Let's エコアクション in AICHI ～巻き起こせ！エコ旋風～」を開催しました。

今回で4回目となる本イベントは、フィギュアスケーター小塚崇彦さんによるトークショーをはじめ、環境戦隊ステレンジャーやOS☆U、服部半蔵忍者隊を起用したエコアクションに関するステージにより、子どもから大人までの幅広い層にエコアクションへの理解を深めていただきました。

また、エコアクション推進の一環として、エコアクションを題材とした「エコ川柳」を募集したところ、1,285作品の応募がありました。この中から優秀作品22作品を決定し、「Let's エコアクション in AICHI」の会場内に掲示するとともに、表彰式を実施し、賞状と記念品を贈呈しました。

あいちエコアクション宣言

小塚崇彦さんのトークショー

ステレンジャーとの会場清掃活動

エコ川柳優秀作品　一例

最優秀賞
おさがりでエコのバトンをつなげよう

優秀賞
こども部門　朝昼晩のこさず食べてゴミへらす
おとな部門　捨てるより少し足りぬがちょうど良い

エコ川柳表彰式

OS☆Uによるエコアクションクイズ

イ　AELネットの活用

県内の環境学習施設のネットワークである**愛知県環境学習施設等連絡協議会**（AEL ネット）を活用して、県民の皆様に気軽に楽しく「エコアクション」へと踏み出す機会を県内各地で提供しています。

AEL ネットは「Aichi Environmental Learning Network」の頭文字をとったもので、平成 29 年 10 月末現在で、173 施設 34 市町村が加盟しており、これらの施設等では、環境全般、エネルギー、自然、ごみを減らす３Ｒ、水環境などについて学習することができます。

平成 28 年度は AEL ネット加盟施設のうち 160 施設等が連携して環境学習スタンプラリーを実施し、65,222 人の参加がありました。

クローズアップ　AELネット環境学習スタンプラリーを開催しています！

県民の皆様に楽しく環境について学んでいただくため、県内の環境学習施設等で構成する愛知県環境学習施設等連絡協議会（AELネット）に加盟する施設等と連携して、「AELネット環境学習スタンプラリー」を開催しています。

スタンプラリー参加施設等への来館、講座・イベントへの参加により、スタンプを３個以上集めて応募いただくと、抽選で図書カードなどの記念品をプレゼントするもので、平成 28 年度は 160 施設等と連携してスタンプラリーを行い、65,222 名の方に御参加いただきました。

平成 29 年度は、169 施設等と連携して 6 月 22 日（木）から翌年 2 月 28 日（水）まで開催しています。この機会にぜひスタンプラリーに参加いただき、エネルギー、自然、ごみ、水環境など様々な環境問題に触れ、楽しく学んでください。

また、スタンプラリー期間中には、「あいちエコアクション広報部」に任命された地元アイドルグループＯＳ☆Ｕのメンバーと、愛・地球博の公式マスコットキャラクターであるモリゾー・キッコロが、対象の施設やイベントに登場します。

ＯＳ☆Ｕ、モリゾー・キッコロと記念撮影
（平成 29 年 6 月 25 日　エコハウス・小牧）

ウ　エコリンクあいちの活用

県全体にエコアクションが広がることを目指して、様々な環境活動情報やイベント情報の発信、情報交換により活動団体の交流の輪を広げることを目的に、Web サイト「エコリンクあいち」(http://aichi-eco.com)を運営しています。

（２）自発的な環境配慮活動の促進

ア　食を通じた環境配慮活動の促進【食育消費流通課**】**

県は、**「あいち食育いきいきプラン 2020」**（第３次愛知県食育推進計画（平成 28 年３月作成））において、「食を通じて環境に優しい暮らしを築くこと」を食育推進の柱の一つとして設定しています。この中で、「食べ物を残さず食べるようにするなど、学んだ知識をもとに自ら行動する」、「食べ残しや食品の廃棄を減らす」などと県民の主体的な取組を促すとともに、県や関係団体等による実践に向けた 10 の取組項目を掲げています。

これまでに、県、関係団体、市町村等が様々な取組を実施しており、その結果、平成 18 年度には 35.5％であった「むだや廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている」県民の割合が、平成 28 年度には 41.5％に改善されました（目標は 32 年度 50％以上）。

また、平成 28 年度の主な取組は以下の 11 事例であり、これらの具体的な内容については、県が作成した**「あいち食育いきいきレポート 2017」**に掲載し、広く関係者に紹介しています。

【環境配慮活動の具体的取組】

○食生活における環境への配慮の徹底（３事例）

小学校での給食完食達成に向けた取組、食生活と環境との関わりについて学ぶ機会となったユネスコスクール交流会 ほか

○農林水産業への理解と地産地消の一層の推進（６事例）

田植え・稲刈り・生きもの観察会、地産地消の推進と健康的な食生活を実現するためのマルシェ開催 ほか

稲作交流会

○農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底（２事例）

エコフィード利用拡大のための研修会 ほか

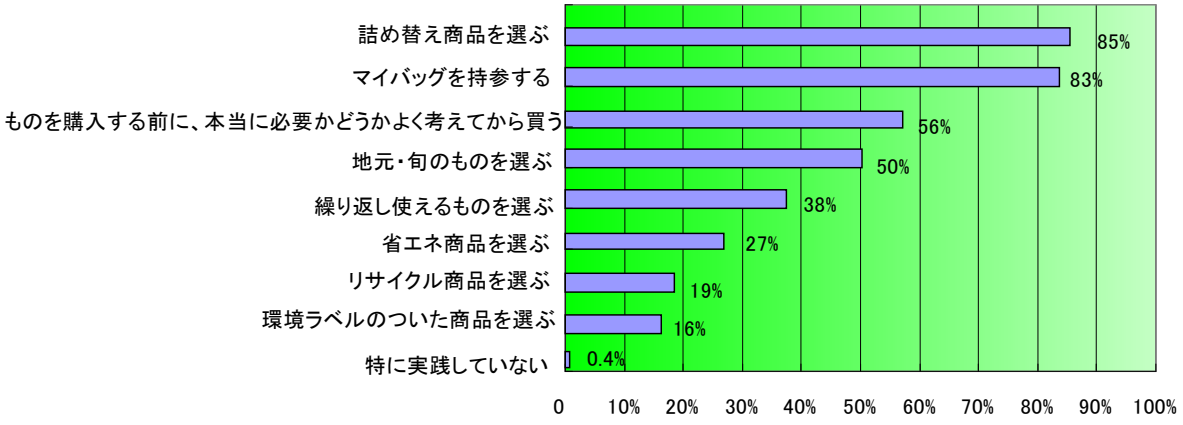
イ　グリーン購入の促進【環境活動推進課】

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。

グリーン購入は、消費生活など購入者自身の活動を環境にやさしいものにするだけでなく、供給側の企業に環境負荷の少ない製品の開発を促すことで、経済活動全体を変えていく可能性を持っています。

県は、岐阜県、三重県、名古屋市、環境ラベルの管理運営団体、グリーン購入の普及推進団体、スーパーマーケットやドラッグストアなどの販売店、メーカーなどと協働して、平成 14 年度から毎年度**「東海三県一市グリーン購入キャンペーン」**を実施し、グリーン購入の普及に努めています。（詳細は「クローズアップ」参照）

図 11-1-1　普段の買い物で実践している「グリーン購入」（キャンペーン参加者へのアンケート結果）



（注）平成 29 年 1 月 13 日～2 月 12 日実施　　（資料）東海三県一市グリーン購入キャンペーン実行委員会調べ

ウ　地域環境保全委員の設置【環境活動推進課】

県は、地域における環境の状況を把握し、その保全に関する活動を推進するため、愛知県環境基本条例第 19 条の規定に基づき、地域環境保全委員を委嘱しています。

委員は、地域における環境保全に関心及び知識を有し、かつ、環境保全に関する活動に熱意を有する人の中から、市町村長の推薦を受けて知事が任命し（定員 200 人、平成 29 年４月１日現在）、それぞれが担当市町村において以下のような活動を行いました。

○地域の環境の状況調査・報告

○県が行う環境保全施策への協力・環境保全に関する啓発、指導等

○地域における環境保全のための自主的な活動への参画、指導等

○県が主催する地域環境保全連絡会議等への出席

クローズアップ　東海三県一市グリーン購入キャンペーンを実施しました

東海三県一市グリーン購入キャンペーンは、グリーン購入の普及と定着を図るため、愛知県、岐阜県、三重県及び名古屋市の４自治体と、日本チェーンストア協会中部支部、グリーン購入ネットワーク、(公財) 日本環境協会エコマーク事務局の３団体で実行委員会を組織し、小売店舗、メーカー、環境ラベル団体等の協力を得て、平成 14 年度から毎年度消費者を対象とした啓発キャンペーンを実施しています。

15 回目となる平成 28 年度は、東海三県内の約 4,000 店舗の参加を得て、平成 29 年１月 13 日から２月 12 日までの１か月間、次の取組を実施しました。

① 店舗内でのポスター、POP等の掲示や、詰め替え商品、環境ラベル商品、旬のもの・地のもの等のグリーン購入対象商品を集めたコーナーの設置
② グリーン購入対象商品を購入した方を対象に、QUO カードや環境に配慮した商品のセット等が当たる懸賞応募を実施
③ 環境対応商品の紹介など、協力店舗による独自企画を実施
④ 店舗・メーカー・環境ラベル団体との協働で、グリーン購入について啓発する展示、クイズ等からなるイベントを実施（愛知県は稲沢市のリーフウォーク稲沢で実施）
⑤ 「懸賞応募はがき」を EXPO エコマネーサテライトに直接持参した方へ EXPO エコマネーを発行
⑥ キャンペーン前に店舗やメーカーの担当者を対象に、当年度実施する取組の内容について意見交換会を開催し、キャンペーン終了後に店舗・メーカー・環境ラベル団体の担当者を対象にキャンペーンの実施報告及び次年度以降の効果的な実施等に対する意見交換会を開催

キャンペーンでは、懸賞応募に併せてアンケートを実施しており、平成 28 年度は 5,087 件の回答をいただきました。普段の買い物で実践しているグリーン購入について聞いたところ、「詰め替え商品を選ぶ」は 85%、「マイバッグを持参する」は 83%の方が実践しているのに対し、「環境ラベルのついた商品を選ぶ」は 16%に留まっていました（**図 11-1-1** 参照）。

今後も引き続きキャンペーンを実施し、グリーン購入の普及を行っていきます。

ショッピングモールで実施したイベント

ドラッグストアにおける POP の掲示

第2節　環境学習等の推進

1　環境学習の推進【環境活動推進課】

環境問題は、私たちの暮らしや経済・社会と密接に関わっており、環境問題を解決するためには、問題の本質や取組の方法を自ら考え、解決する能力を身に付け、何よりも行動に結びつけていく環境学習が不可欠です。

このため、県は、平成 17 年１月に**「愛知県環境学習基本方針」**を策定し、**「あいち環境学習プラザ」**（愛知県東大手庁舎１階）及び**「もりの学舎（まなびや）」**（愛・地球博記念公園内）を拠点にして、環境学習講座などを実施してきました。

平成 24 年 10 月に**環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律**が施行されたことに伴い、県では平成 25 年２月に**「愛知県環境学習等行動計画」**（以下本節において「行動計画」という。）を策定し、環境学習の一層の推進に取り組んでいます。

【用語】愛知県環境学習等行動計画
「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」（平成 15 年法律第 130 号）第８条に基づき、平成 25 年２月に愛知県が策定したもので、「環境面で持続可能な社会を支える人づくり」を進めるため、環境学習等の取組を進めることとしている。

（１）愛知県環境教育等推進協議会の開催

県では行動計画の推進のため、学校教育及び社会教育の関係者、県民、事業者、NPO、学識経験者、行政等で構成する愛知県環境教育等推進協議会を設置しています。

平成 28 年度は協議会を４回開催し、協働取組のガイドライン（環境教育　協働授業づくりハンドブック）作成に関する意見交換等を行いました。

（２）環境学習の拠点施設での取組

ア　あいち環境学習プラザ

県の環境学習を担う拠点施設「あいち環境学習プラザ」では、簡単な実験などを交えた環境学習講座を実施するとともに、環境学習情報の収集・発信、環境学習プログラムの開発、環境学習を指導する人材の養成など各種の事業を実施しています。

あいち環境学習プラザでの講座

イ　もりの学舎（まなびや）

自然体験型の環境学習施設「もりの学舎」では、愛知万博で実施されたプログラムを継承・発展し、土・日・祝日等を中心に様々な環境学習プログラムを実施しています。

また、平成 23 年度からは事業者と連携・協働した学習プログラムも実施しており、開館（平成 19 年３月）以来の入館者数は 515,497 人、プログラム参加者数は 204,240 人（平成 29 年９月末）となっています。

連携事業者名一覧

(一社)愛知県環境測定分析協会
(一社)愛知県産業廃棄物協会
(公財)愛知臨海環境整備センター
㈱環境科学研究所
積水ハウス㈱
(一財)東海技術センター
東邦ガス㈱
名古屋キワニスクラブ

（五十音順）

【平成 28 年度「もりの学舎」事業実施状況】

○プログラム参加者数：14,509 人

内　　容	参加者数
インタープリターと歩くもりのツアー「もりコース」・「かめの池コース」 （毎週土・日・祝日、各日２回）	4,706 人
あそび工房 インタープリターによる自然素材やリサイクル素材などを使った工作教室 （GWや夏休みなどの特定日、１日２回又は３回）	2,469 人
その他の事業 もりの学舎キッズクラブ、おさんぽｄｅいきものみっけ、ミッションｉｎモリコロパーク、夏・冬おやこクラフトなど　（随時開催）	7,334 人

○来館者数：50,603 人

インタープリターと歩くもりのツアー

おさんぽ de いきものみっけ

クローズアップ　もりの学舎開館10周年記念「もりの学舎まつり」を開催しました

もりの学舎は、平成19年３月の開館以来多くの皆様に御利用いただき、平成28年３月に10周年を迎えました。その記念として、平成29年３月20日（月・祝）に、もりの学舎開館10周年記念「もりの学舎まつり」を名古屋キワニスクラブの寄附を得て開催しました。

当日は、もりの音楽隊によるコンサートがオープニングを飾り、もりの学舎で自然に親しんできた子ども達が来館者へ自然体感プログラムを披露する「キッズインタープリターの自然体感プログラム」や、幼児が楽しく自然と触れあう「インタープリターとしぜんあそび」など、数多くのプログラムを実施しました。

もりの学舎まつりの様子

名古屋キワニスクラブは、子ども達のための奉仕活動を展開する団体です。平成28年に創立50周年を迎えられ、その記念事業として平成28年度から10年間にわたって「もりの学舎キッズインタープリターの養成」事業を支援していただいています。

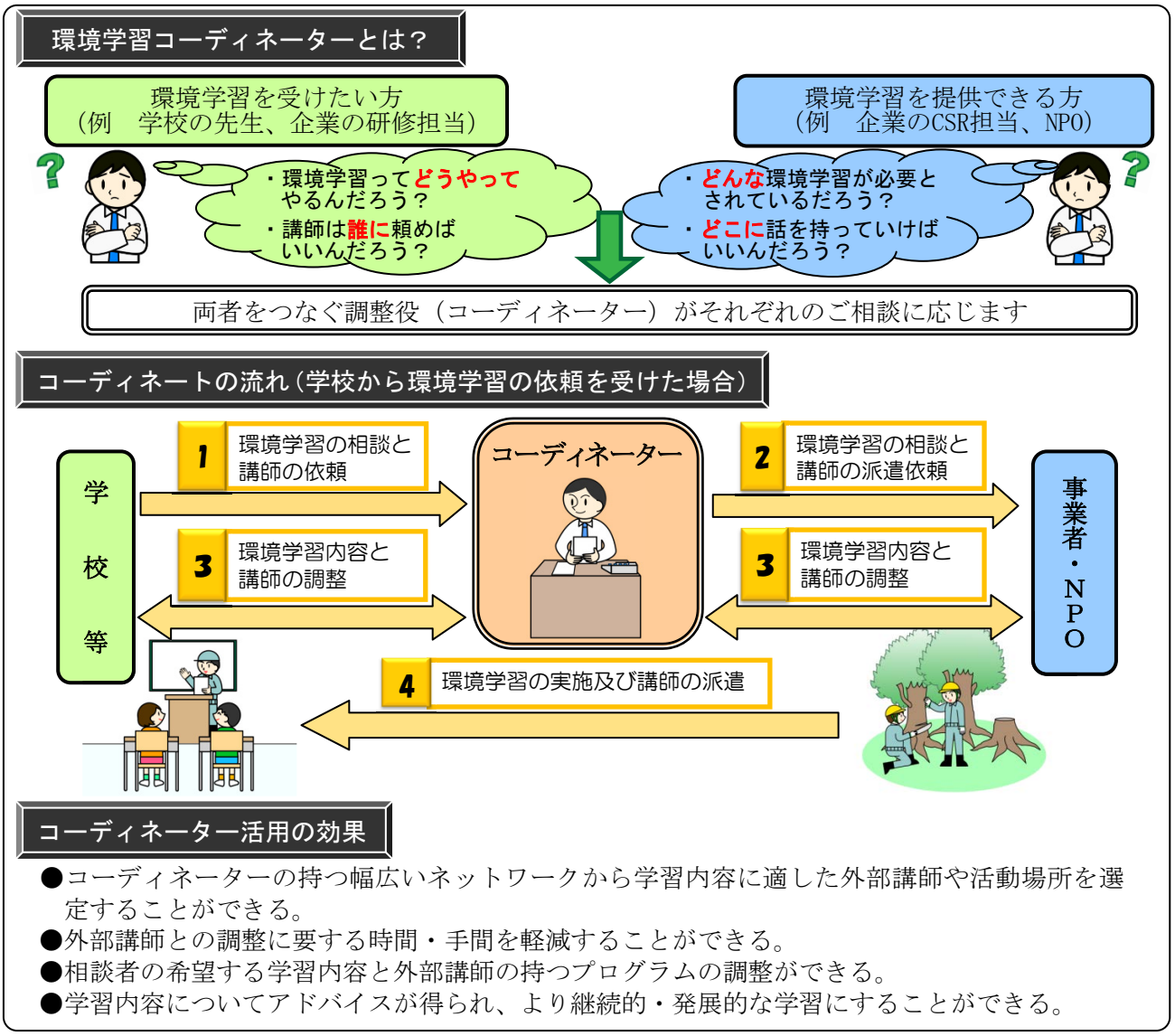
（３）環境学習コーディネーターの活用

環境学習は、具体的な行動に結びつけていくことが重要で、そのためには、地域を教材とした自然体験や社会体験などを通して実感を持って学ぶことが非常に有効です。こういった体験型の環境学習を地域や学校等で推進するためには、地域、学校、NPO、事業者、行政等が連携・協働し、各主体のノウハウを生かしあうことが重要です。

このため、県では平成 25 年度から**「環境学習コーディネーター」**をあいち環境学習プラザに設置し、講師・活動場所の紹介といった相談業務や、講師と相談された方の間に入って、講義の日程や学習内容の調整などを行うコーディネート業務を実施しています（**図 11-2-1**）。

平成 28 年度の依頼件数は、相談業務が 13 件、コーディネート業務が 24 件でした。

図 11-2-1　環境学習コーディネーターについて



（４）環境学習プログラムの実施

小・中学生を始めとした県民を対象に、「あいち環境学習プラザ」「もりの学舎」等で、簡単な実験なども交えて行う体験型の環境学習講座などを実施しています。平成 28 年度は、水のよごれなどの身近な問題や地球温暖化、生物多様性などの地球環境問題をテーマに、実験や自然体験を交えた講座等を開催しました。

（５）愛知県環境学習施設等連絡協議会の運営

県は、愛知県環境学習施設等連絡協議会（AEL（あえる）ネット）を設置し、県内の環境学習施設や市町村などに参加してもらい、それぞれが保有する環境学習プログラムや指導のノウハウ等の情報を共有するなど、各施設間のネットワークづくりを進めています。

平成 28 年度は、協議会を２回開催し、AEL ネット環境学習スタンプラリー、施設間の連携について検討し、「でんきの科学館」、「展示館ブラザーコミュニケーションスペース」の施設見学とプログラム体験を行いました。

AEL ネットの開催状況

クローズアップ　「もりの学舎（まなびや）」の来館者が50万人に達しました

愛・地球博記念公園内の環境学習施設「もりの学舎」（平成19年３月25日開館）では、環境に関する様々な展示を行っているほか、この施設を運営している「特定非営利活動法人もりの学舎自然学校」が、土日・祝日を中心に、「インタープリターと歩くもりのツアー」や各種の工作教室などの環境学習プログラムを実施しています。

もりの学舎

これまでもりの学舎への来館やプログラム参加をしていただいた皆さんのおかげで、平成29年５月21日（日）に来館者数が50万人に達しましたので、記念セレモニーを開催しました。

もりの学舎では、これからも皆さんに笑顔で自然に親しんでいただけるよう、様々な活動を実施していきますので、是非、もりの学舎に遊びに来てくださいね。

記念セレモニーの様子

（６）こどもエコクラブ活動への支援

環境省の呼びかけにより始まった「こどもエコクラブ」は、子どもたちが地域の中で楽しみながら自主的に環境活動・学習を行うクラブで、県内では、平成 28 年度末で 115 クラブ 6,690 人がリサイクル・美化活動・自然観察会など様々な活動を行っています。

県は、地方事務局としてこどもエコクラブの活動の支援を行いました。

２　学校における環境教育の推進【義務教育課、高等学校教育課、環境活動推進課】

学校教育における環境教育は、社会科（高等学校においては、地理歴史科及び公民科）、理科、生活科、家庭科（中学校においては技術・家庭科）、保健体育科、道徳等の関係教科及び総合的な学習の時間、特別活動など、それぞれの目的に即して取り上げられています。

県で行っている環境教育の指導方針は、次のとおりです。

○　環境問題に関心をもたせ、環境の保全やよりよい環境の創造のために主体的に取り組む態度と能力を育てる。

○　自然と触れ合う機会を多くもたせ、豊かな感受性や創造性を育てる。さらに、身近な事象の中から問題を見付け、意欲的に問題を解決していこうとする態度と能力を育てる。

○　自然環境の状況は、地域によって異なるため、地域の実態に合った身近な問題を取り上げ、具体的な活動を通して学習できるように工夫する。さらに、生涯学習として発展させていくために、学校、家庭、地域社会との連携の中で継続して展開していく。

平成 28 年度は、学校における環境教育の推進を図るため、次の事業などを実施しました（**表 11-2-1**）。

表 11-2-1　学校における環境教育推進事業例（平成 28 年度）

事　　業	内　　容
環境学習副読本の作成・配付	県内の小学校の４年生に対し、環境学習副読本「わたしたちと環境」を作成・配付（名古屋市立は各校１冊配付）
心の教育推進活動の実施	県内の小・中学校において、家庭・地域との連携を基盤に、環境保護、自然との触れ合い、奉仕、福祉等の体験を重視した教育活動を実施
あいちグリーンウェイブ運動	県内の全小・中学校において、５月 22 日の国際生物多様性の日を中心に、ドングリの植樹・水やり、植樹や生物多様性にかかわる講話、必要に応じたイベントなどを実施

（資料）環境部・教育委員会調べ

平成 28 年度版環境学習副読本
「わたしたちと環境」

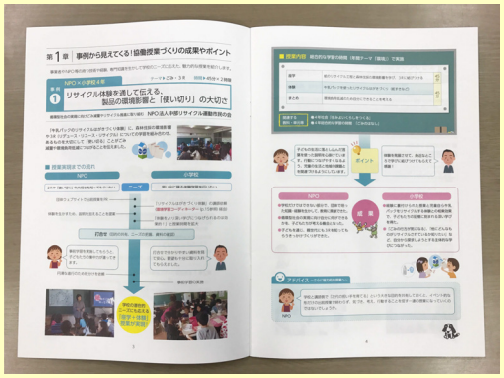
クローズアップ　「環境教育　協働授業づくりハンドブック」を発行しました!

愛知県では、学校での環境教育において事業者・NPO 等との連携・協働を促進するための手引きとして、「環境教育　協働授業づくりハンドブック」を作成しました。

このハンドブックでは、実際に社会の課題解決に取り組む事業者・NPO が、専門的な知識や技術等を生かして学校と授業を一緒につくり上げることにより、子どもたちが学んだことを生活や社会に結びつけて行動できるようになることを、事例を通して分かりやすく紹介しており、教員・保育者向けと事業者・NPO・高等教育機関・行政等向けの２分冊となっています。

このハンドブックは、愛知県環境学習等行動計画（平成 25 年２月策定）に示す「協働取組のガイドライン」として作成したものです。作成にあたっては、県内の連携・協働事例を対象としたヒアリング調査結果等を基に、平成 28 年２月から 12 月にかけて愛知県環境教育等推進協議会（県民、事業者、NPO、学識経験者、学校教育関係者、社会教育関係者、行政機関で構成）で検討してきました。

県では、今後、このハンドブックを活用して、学校と事業者・NPO 等との連携・協働を促進・円滑化し、学校の中だけではできない実体験等を通した、より実践的に実感を持って学べる環境教育を広く実現していきます。



３　環境月間行事の実施【環境活動推進課】

1972 年（昭和 47 年）６月５日から２週間、スウェーデンのストックホルムで国連人間環境会議が開催されたことから、国連は６月５日を**「世界環境デー」**と定め、日本でも**環境基本法**により**「環境の日」**と定めています。

また、環境省の主唱により、平成３年度から、毎年６月の１か月間を**「環境月間」**（昭和 48 年

度から平成２年度までは６月５日を初日とする週間を「環境週間」としていました。）とし、環境問題の重要性を認識するとともに将来に向かってよりよい環境を創出するための努力と決意を新たにする機会として、各種の記念行事を実施しています。

県においても、毎年、環境月間に各種の行事を実施しており、平成 28 年度は、６月６日に県本庁舎正庁で**「環境保全関係功労者表彰式」**を開催し、県内の環境保全に関し顕著な功績があった５団体と 12 名の方に対し、知事から愛知県産の間伐材を使った表彰状等が手渡されました。

環境保全関係功労者表彰式

クローズアップ　モリコロパークで「げんきの森づくり」を開催しています

モリコロパークで、子どもたちが自分の手で楽しい森づくりをする「げんきの森づくり」を、東京海上日動火災保険株式会社の協賛を得て、平成 29 年度から開催しています。

平成 29 年度は、６月と９月に森の整備や遊び道具作りといった２回の森づくりを行い、12 月には「こどもの森フェス」を行う予定です。

なお、この活動は、東京海上日動火災保険株式会社の「Green Gift 地球元気プログラム※」として実施しています。

第１回活動の様子（６月）

集合写真（９月）

※日本 NPO センターが主体となり、東京海上日動火災保険㈱と国内各地の環境 NPO が協力して、主に子どもたちを対象とした環境保全活動を各地で展開しているもの。

第３節　国際環境協力の推進

１　国際環境協力の推進【環境政策課】

昭和 40 年代の深刻な公害を克服してきた本県には、公害防止対策に関する知識、経験等の大きな蓄積があります。アジア諸国を中心に公害に悩む開発途上国は多く、それらの国々に対し、県は（独）国際協力機構（JICA）などと提携した環境協力を進めてきました。

平成 28 年度には、**表 11-3-1** のとおり、計 15 名の研修生等の受入れを行いました。

表 11-3-1　国際環境協力の実績（平成 28 年度）

国　名　等	人数	期間	主な研修・調査内容
ボリビア（環境水資源省国家灌漑サービス局長ほか）	７名	１日	地下水水質基準、モニタリング及び採取規制
中国・上海市崇明県（科学技術委員会主任、教育局副局長ほか）	６名	１日	副知事表敬、環境学習プラザ事業
中国（大学生）	２名	１日	留学生インターンシップ（本県の環境行政について）